

登録コード:MH215300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	臨床検査管理学【20M以降】 Management of Clinical Laboratory			
担当教員	山内 一由			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻/3年		前期	金曜・3 時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 2 4 1 講義室		遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH22カリ・保健、MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		臨床検査における標準化と精度保証体系について理解するとともに、臨床検査情報の判断基準とその評価方法を習得する。	
	MH25カリ・保健・検査、MH23カリ・保健・検査			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		臨床検査値の特性を理解し、その臨床的評価に医学統計学およびそれを基盤とする各種精度管理法を活用することができる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		日進月歩の医療の発展に追随し、最新の医療に対応した臨床検査の提供に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	医療の進歩や専門化に伴い、医療現場における医療スタッフの役割は大きく変化してきている。臨床検査技師においても、依頼項目の検査を行うだけでなく、医療スタッフの一員として、最新の医療に対応することが要求されている。本授業では、疾患の診断、予防に役立つ客観的な臨床検査データを迅速に提供することを目的に、医療組織の中における検査部門の管理と運営および検査の標準化を理解し、精度管理の概念と技術を修得する。演習を取り入れ、統計的解析と評価を行う。 本授業では、1 年次に学んだ「データサイエンスリテラシー」と「検査機器総論」の知識を前提とし、2 年次の「病態化学検査学」や3 年次の「脂質・酵素検査学」をはじめとする分析系の専門科目におけるデータの取り扱いを中心に学ぶ。本授業で習得する知識は、4 年次の臨床実習における重要な知識となる。 本授業は、担当教員の医療機関における検査技師及び医師の実務経験を生かした講義を行う。			
授業計画	第1回（4月10日）臨床検査の精度管理と品質保証（山内） 第2回（4月17日）測定誤差と許容限界（山内） 第3回（4月24日）精度管理法 1（臨床化学、血液検査における精度管理）（山内） 第4回（5月8日）精度管理法 2（病原微生物検査、遺伝子検査、病理検査、生理検査における精度管理）（山内） 第5回（5月15日）精度管理の実践と応用（山内） 第6回（5月22日）外部評価と認証制度 1（QCとQMS）（山内） 第7回（5月29日）外部評価と認証制度 2（臨床検査の標準化とISO15189）（山内） 第8回（6月5日）病院臨床検査室の現状と課題 第9回（6月12日）中間試験（山内） 第10回（6月19日）標準化体系とトレーサビリティ（山内） 第11回（6月26日）信頼性評価と技術評価（山内） 第12回（7月 3日）基準範囲の設定とその活用（山内） 第13回（7月10日）カットオフ値、臨床判断値とその活用（山内） 第14回（7月17日）臨床的有用性の評価（山内） 第15回（7月24日）総括、授業アンケートの実施（山内） 第16回（7月31日）期末試験（山内）			
授業の進め方	教科書とスライド講義資料による講義を行う。また、精度管理に必要な図表作成および評価のための演習を行う。なお、演習はパソコンを使わず、計算機等で計算、作図し、精度管理の原理を学ぶ。演習内容は、レポートで提出する。			
テキスト、教材、参考書	教科書：高木 康、三村邦裕；検査総合管理学（医歯薬出版）、諏訪部 章、高木 康、松本哲哉；医療安全管理学（医歯薬出版） プリント 参考書：34版臨床検査法提要（金原出版）および授業の中で紹介			
成績評価の方法	総括的評価の配分は、試験（90%）および演習レポート(10%)の合わせて60%以上を合格とします。 試験配分は、中間試験（60点）期末試験(40点)とします。 ただし、各試験得点60%未満、中間・期末試験欠席者は、期末試験週間後に追・再試を行い得点60%以上を試験合格とします。中間試験は第8回（6月5日）に筆記試験として実施します。中間試験では、用語や定義などの基本的な内容の理解度、それまでの授業の内容の理解度を試験します。期末試験は第16回（7月31日）に筆記試験として実施します。期末試験では、全体を通じて、講義内容、演習内容の理解度の評価とともに、応用力を試験します。			

成績評価の基準	出試験配分は、中間試験と期末試験を合算して100点換算し、下記の通り判定します。 90-100%：秀、80-89%：優、70-79%：良、60-69%：可
事前事後学習の内容	【事前学習】1年次に行った実験等の安全教育の復習を行っておく。検査結果の評価には、臨床化学などの知識が必要なので、予習をしておく。テキストがe-ALPSに準備されている。 【事後学習】講義内容や資料に基づき、教科書と照らし合わせて復習する。演習の作図や統計値の計算は、エクセルなどを使ってコンピューターでも作図、計算してみる。関連したキーワードは、インターネットなどで検索して、理解を深める。統計計算は、インターネットにテキストが豊富に用意されているので、自分に適した教材を用いて理解を深める。本授業の単位取得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を要します。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間60時間（4時間×15回）＝90時間
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問や相談は、授業中および終了後にて受け付け、授業で説明していく。E-mailでも受け付ける。 担当；山内一由 E-mailアドレスは、学生便覧を参照。